

氏 名：山 崎 美智子

学位の種類：博士（看護学）

報告番号：甲第119号

学位記番号：博第115号

学位授与年月日：令和6年3月13日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文題目：がんの高齢者と家族への訪問看護実践：

治療から緩和への移行期における高齢者と家族の生活に対する意向をふまえて

Home-Visiting Nursing Practices for Older People with Cancer and Their Families:

Based on Their Wishes for the Life During the Transition from Treatment to Palliative Care

論文審査員：主査 坂 口 千 鶴

副査 川 原 由佳里（正研究指導教員）

副査 石 田 千 絵（副研究指導教員）

副査 吉 田 みつ子

副査 内 木 美 恵

論文審査の結果の要旨

審査の概要

日本では、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けられるよう、地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化・連携が推進されている。死因の多くを占めるがんの高齢者に対しても、在宅で暮らす高齢者への医療の提供と療養生活の質の向上が求められている。先行研究では、がんの高齢者とその家族が治療選択、病状悪化、介護負担などの課題を抱えながらも、治療や生活の仕方に関して自ら意思決定をすることを望んでいること、一方の訪問看護師には、特にがんの治療から緩和への移行期にある高齢者と家族に対し、病状理解を促し、先行きを伝え、今後の治療や生活への意向を聞く難しさがあることが示唆されている。以上から本研究は、がん治療から緩和への移行期にある高齢者と家族の生活に対する意向を踏まえて行われる訪問看護師の看護実践を明らかにすることを目的とした。

研究では4つの訪問看護ステーションでの豊富な経験を持ち実践力のある訪問看護師4名と担当するがん高齢者とその家族5組10名に対して、高齢者への訪問看護場面の参与観察と看護師、家族へのインタビューが行われた。データはがん高齢者のケースごとに分析された。結果では、訪問看護師が日頃の実践に織り交ぜながら、高齢者と家族の人となりを知り、彼らの真の意向を探求し続ける実践や、訪問看護師が言葉や態度、触れるケアなどを通して高齢者に意向を共に叶える存在であり続けることを示す実践が明らかになった。高齢者の意向を共に叶え続けるといった看護師による役割と覚悟の表現は、高齢者と家族の不安と孤独を和らげ、看護師との信頼関係を深め、先行きへの安心感を生み出し、彼らが意向を語るうえでの基盤となった。またこれらの実践が高齢者の治療を継続したいという意向を叶え、生活の質を高め、家族は無理のない方法で高齢者にかかわることにつながっていたと考察された。

本研究の審査において、日本におけるがんの死亡数の多くを占める高齢者とその家族に注目し、特に治療の困難さや支える家族の負担等多くの課題がある治療から緩和への移行期に焦点を当て、それを支える訪問看護師の実践を明らかにした点について、国内外ともに先行研究が非常に少ない中で貴重な研究であると評価された。また、その研究方法についても、コロナ渦のなか高齢者への訪問看護場面の参加観察を中心に、訪問看護師と家族へのインタビューも加え、非常に多面的で厚みのあるデータをもとに、事例ごとに詳細で深い分析を行ったことも高い評価を得た。さらに、結果についても詳細かつ丁寧に描かれ、熟練した訪問看護師が、がん高齢者やその家族から意向を引き出し、互いの意向を調整し、その意向を踏まえて生活の中で実現しようとしている有り様を、リアリティをもって生き生きと描いていることも高く評価された。今後、高齢者への意思を尊重する支援や看取りを含めた訪問看護実践へのニーズはさらに高まると考えられ、この熟練看護師の訪問看護実践から導き出された本研究の結果は、国内外での訪問看護師の実践、教育に貢献できるものと期待される。

審査の結果、本論文は本学の審査基準を満たしていると判断し、博士（看護学）の学位論文として「合格」と判定した。